



新着図書のお知らせ

猪名川高等学校図書室
2025・10

先生や生徒の皆さんから寄せられたリクエスト図書が続々と入荷しています。
ぜひ新着コーナーで、新しい本との出会いを楽しんでくださいね。

新編本日もをかし!!
枕草子 小迎 裕美子

新編人生はあはれなり……
紫式部 小迎 裕美子

胸はしる 更級日記
小迎 裕美子



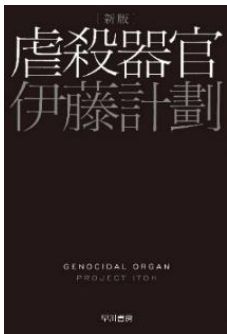
古典だからと倦厭されがちな『枕草子』。実際は、清少納言のするどい観察眼が牙え渡る秀逸のエッセイ。



さぞ華やかな日常を送っていたのかと思いきや、実際は将来が不安、人目を気にしすぎてつらい、出る杭は打たれるのでできるだけ目立ちたくないなど現代女性でも共感できる、人間関係、仕事、嫉妬などが綴られている。



夢見る少女時代から、後悔と懺悔の日々の晩年までを綴った平安女子の回想録。



虐殺器官 伊藤 計劃

9・11以降の“テロとの戦い”は転機を迎えていた。先進諸国は徹底的な管理体制に移行してテロを一掃したが、後進諸国では内戦や大規模虐殺が急激に増加していた。米軍大尉クラヴィス・シェパードは、その混乱の陰に常に存在が囁かれる謎の男、ジョン・ボールを追ってチェコへと向かう……彼の目的とはいったい何か？大量殺戮を引き起こす“虐殺の器官”とは？

リクエストはいつでも大歓迎です！「こんな本が読みたい！」という声を、どうぞお気軽にお知らせください。
図書室担当より



柔らかな個人主義の誕生
山崎 正和

柔らかな個人主義の誕生
山崎 正和



不確実性の時代から顔の見える大衆社会へ。消費文化を美学的見地から捉えた第16回吉野作造賞受賞作。

おとぎ話はなぜ残酷でHappy-Endなのか ウェルズ恵子



人間ではない恋人、語るの掟、開けてはいけない部屋——幸せな人が、幸せを求めて旅に出るでしょうか。むかしむかし、死の恐怖におびえる人々が夢みて語り継いだ物語が、アニメやゲームのモチーフになって現在にも生き続いています。なぜおとぎ話があり、私たちに何を語るのでしょうか。闇と光の物語の、深層に触れてみませんか。



ゼロからの読書教室
読書猿

読むのが遅い、面倒くさい、何を読んだらいいのかわからない……読書にあこがれはあっても、悩みは尽きないものです。そんな、読書にまつわる悩みの数々を、「正体不明の読書家」読書猿が一挙に解決！

カフェ 阿部 暁子



【第8回未来屋小説大賞】一緒に生きよう。あなたがいると、きっとおいしい。やさしくも、せつない。この物語は、心にそっと寄り添ってくれる。食べることは生きること。二人の「家事代行」が出会う人びとの暮らしを整え、そして心を救っていく。

ことばで愛し、ことばでたたかう 持田 叙子



自分の心に正直に生きるのが、今よりずっと大変だった明治・大正・昭和時代。文学のことばは鋭く優しく壁をこわし、生きつらさを飛びこえました。与謝野晶子、森鷗外&茉莉、泉鏡花、永井荷風——手紙がSNSに変わっても、ことばで考え、思いを伝える私たちに、レトロで新しいことばの宝石が、きっとパワーを与えてくれます。

定食屋「雑」 原田 ひ香



真面目でしっかり者の沙也加は、丁寧な暮らしで生活を彩り、健康的な手料理で夫を支えていたある日、突然夫から離婚を切り出される。理由を隠す夫の浮気を疑い、頻繁に夫が立ち寄る定食屋「雑」を偵察することに。